

愛媛県今治市山之内川で採集されたシナヌマエビ

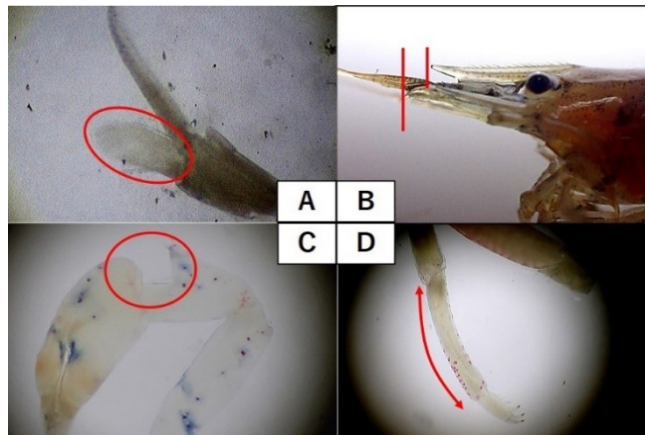
高橋弘明¹・清水孝昭²・山本貴仁³・岩田和鷹³¹株式会社 相愛²愛媛県農林水産研究所水産研究センター³西条自然学校写真1 *Neocaridina davidi* (Bouvier, 1904)
シナヌマエビ

写真2 各部の形態

種の記録

Atyidae ヌマエビ科

Neocaridina davidi (Bouvier, 1904)

シナヌマエビ(写真1)

標本 採集年月日:2023年7月29日. 採集場所:愛媛県今治市大西町山之内川(34.0492N,132.9197E). 採集方法:タモ網. 採集数:5個体. 標本保管:株式会社相愛内(液浸)

種の特徴

前側角部に棘を有する. オスの第1腹肢内肢は洋梨状の形状(写真2A). 額角は短く, 先端は触覚鱗先端に届かない(写真2B). オスの第1歩脚腕節前縁の凹みは大きく(写真2C), 第3歩脚の掌節は湾曲する(写真2D). 体色は淡褐色の地色に茶褐色の縞と斑点を持つ個体が多いが変異に富む.

備考

分類は豊田・関(2014;2019), 三次ほか(2021)を参考にした. 本種は中国, 台湾, 韓国原産の国外外来種であるが, 活きた釣り餌として輸入され, 日本各地の野外水域で確認されている(斎藤ほか, 2011). 愛媛県ではこれまで未記録であった. 山之内川では中流域の水際植生の中で採集され, 生息数は極めて多い. 同じカワリヌマエビ属で, 静岡県以西の本州, 四国, 九州に在来分布するミナミヌマエビ *N. denticulata* (De Haan, 1884)とは交雑することが知られており, 正確な同定にはDNA分析が必要とされている

(Onuki and Fuke, 2022). ここでは前述の諸形質に加え, ミナミヌマエビや交雑が疑われる個体は確認されなかったことからシナヌマエビと同定した.

引用文献

三次充和・久本洋子・鈴木廣志. 2021. 千葉県房総半島より確認された外来カワリヌマエビ属の一種の外部形態, 遺伝子情報および生活史. *CANCER* 30: 1-9.

Onuki K, Fuke Y. 2022. Rediscovery of a native freshwater shrimp, *Neocaridina denticulata*, and expansion of an invasive species in and around Lake Biwa, Japan: Genetic and morphological approach. *Conservation Genetics*, 23: 967-980.

斉藤英俊・丹羽信彰・河合幸一郎・今林博道. 2011. 西日本における釣り餌として流通される水生動物の現状. 広島大学総合博物館研究報告, 3:45-57.

豊田幸詞・関慎太郎. 2014. 日本の淡水性エビ・カニ. 誠文堂新光社, 東京. 255pp.

豊田幸詞・関慎太郎. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 339pp.

(2023年8月9日受付, 2023年8月10日公開)

連絡先:高橋弘明(e-mail: h.takahashi@soai-net.co.jp)

(Hiroaki Takahashi, Takaaki Shimizu, Takahito Yamamoto and Kazutaka Iwata. 2023. Record of *Neocardina davidi* from Yamanouchi River in Imabari City, Ehime Prefecture. *NS Fieldnote*, 23013)